

4 退院患者の状況

(1) 退院患者平均在院日数

ア 施設の種類・年齢階級別

調査期間1か月間に医療施設を退院した推計患者119万1千人(病院106万4千人、一般診療所12万7千人)の在院日数の平均である退院患者平均在院日数を施設の種類別にみると、病院39.7日、一般診療所19.0日となっており、これを平成11年と比べると病院は2.1日短く、一般診療所は0.3日短くなっている。

年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるに従い退院患者平均在院日数は長くなっている。(図7・8、統計表13)

図7 施設の種類の別みた退院患者平均在院日数の年次推移

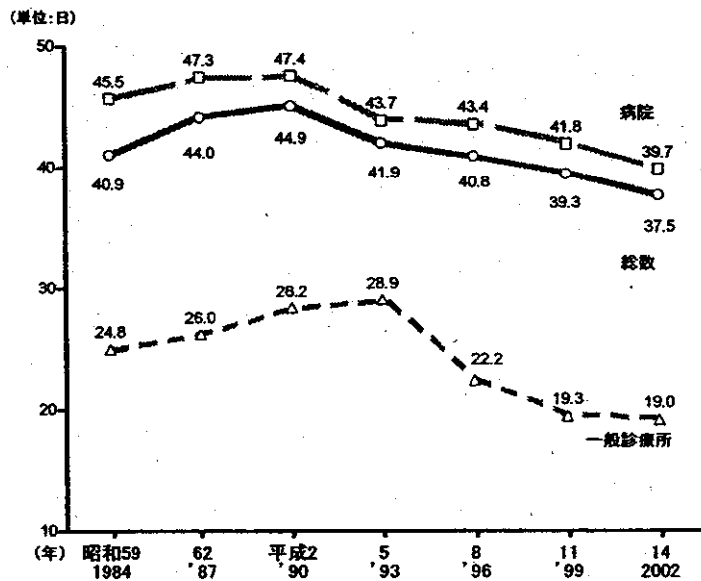
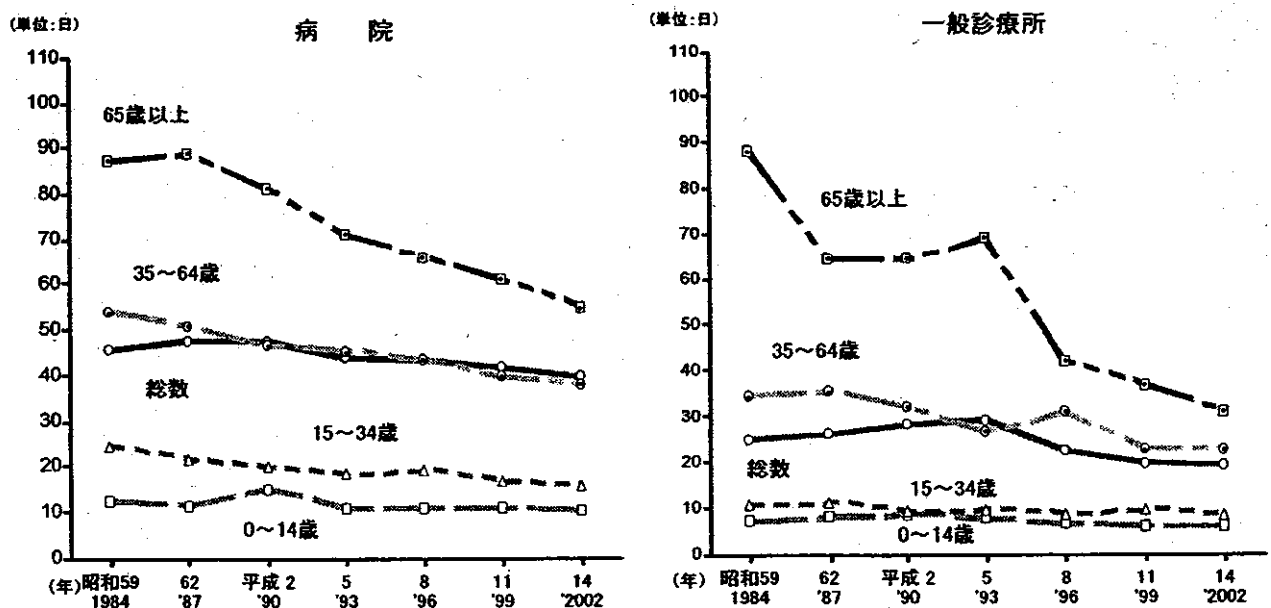


図8 年齢階級別にみた退院患者平均在院日数の年次推移



イ 傷病分類別

退院患者平均在院日数を傷病分類別にみると、「V 精神及び行動の障害」が292.9日と最も長く、次いで「VI 神経系の疾患」58.9日、「IX 循環器系の疾患」58.0日の順となっている。(表10)

表10 傷病分類別にみた年齢階級別退院患者平均在院日数

(単位:日)

平成4年9月1日~30日

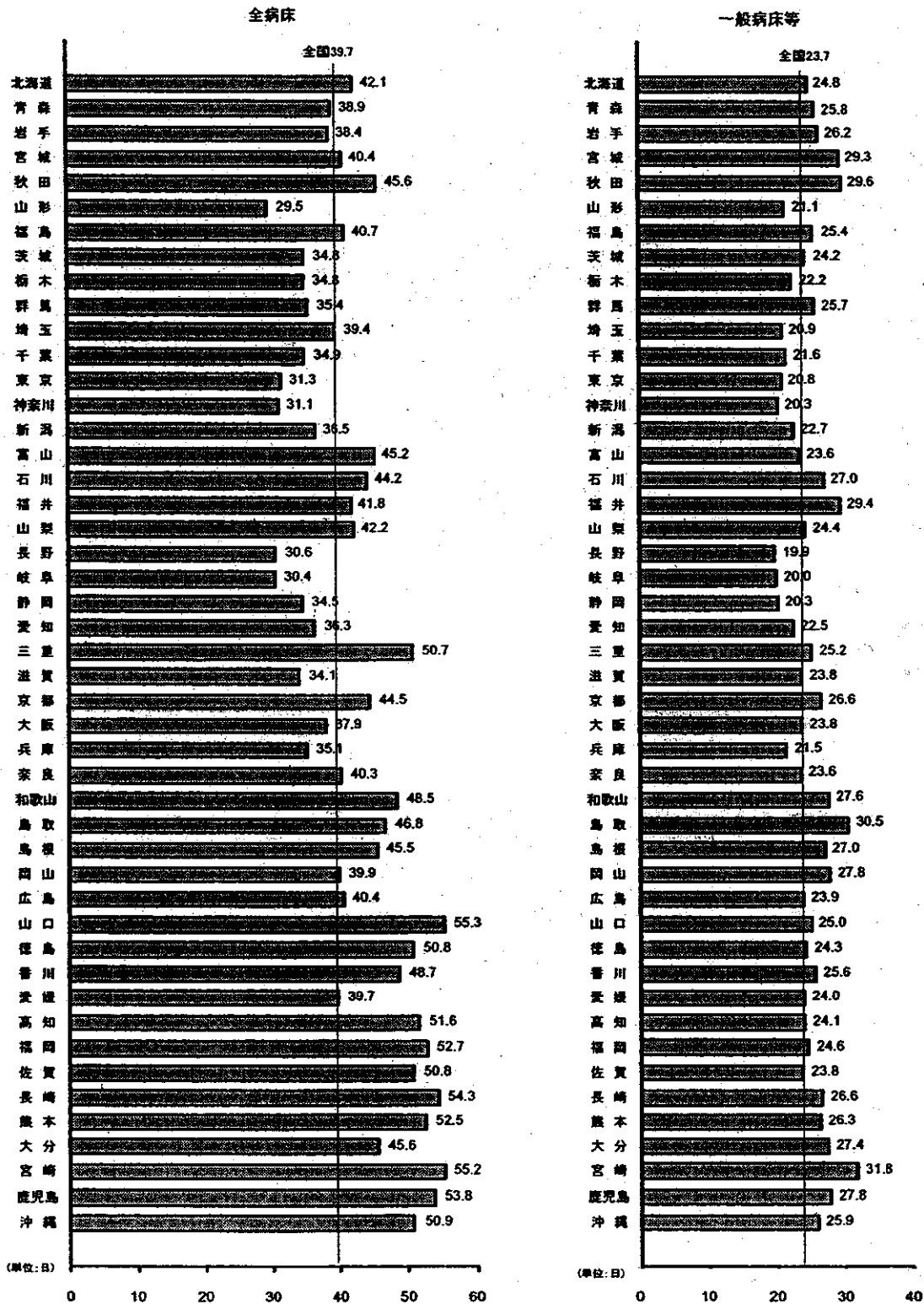
傷病分類	総数	男	女	0~14歳	15~34	35~64	65歳以上	70歳以上(再掲)	75歳以上(再掲)
総数	37.5	37.7	37.4	9.8	13.9	36.5	52.7	54.9	59.5
I 感染症及び寄生虫症	28.4	31.8	24.6	6.4	10.3	28.6	50.4	54.2	62.9
結核 (再掲)	85.8	89.4	78.8	30.4	69.8	89.9	87.1	85.4	89.1
ウイルス肝炎 (再掲)	31.4	32.5	29.7	9.8	19.8	29.1	40.0	49.2	48.1
II 新生物	28.4	28.6	28.2	27.7	18.6	24.4	32.1	33.7	36.3
胃の悪性新生物 (再掲)	38.7	37.3	41.6	25.8	27.6	35.1	40.5	42.2	43.2
大腸の悪性新生物 (再掲)	33.0	31.4	35.1	22.2	28.8	28.5	35.5	36.5	40.6
肝及び胆管内胆管の悪性新生物 (再掲)	29.6	28.0	33.7	20.8	29.5	30.2	29.4	30.2	32.6
気管、気管支及び肺の悪性新生物 (再掲)	38.8	37.6	41.9	20.4	29.4	36.7	39.8	41.2	42.3
III 血液及び血管系の疾患並びに免疫対抗体の障害	31.8	36.9	29.0	16.3	11.0	41.0	42.0	44.6	43.9
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	36.8	32.4	41.4	13.6	19.3	28.7	46.1	50.8	55.8
糖尿病 (再掲)	41.8	35.3	49.8	27.5	19.2	30.8	53.1	60.6	71.0
V 精神及び行動の障害	292.9	359.7	238.5	48.4	75.1	314.6	427.9	396.8	365.8
血管性及び詳細不明の痴呆 (再掲)	322.2	246.2	365.1	6.0	11.0	291.1	323.9	325.3	324.6
精神分裂病、分裂型障害及び妄想性障害 (再掲)	575.9	736.9	435.3	109.5	123.7	559.1	564.5	619.4	654.3
VI 神経系の疾患	58.9	46.6	74.3	17.8	32.1	50.9	84.6	92.1	98.7
VII 眼及び付属器の疾患	9.2	9.3	9.0	7.9	10.8	9.5	9.0	9.3	9.4
VIII 耳及び咽喉突起の疾患	15.6	11.6	18.1	8.0	11.6	12.1	22.6	26.2	33.0
IX 循環器系の疾患	58.0	45.4	72.7	16.9	14.2	30.2	70.2	74.9	84.8
高血圧性疾患 (再掲)	45.8	32.0	52.5	5.9	14.8	27.3	51.9	55.7	60.8
心疾患(高血圧性のものを除く) (再掲)	28.7	20.3	40.2	21.3	13.3	15.0	34.7	37.2	43.2
脳血管疾患 (再掲)	102.1	84.9	120.3	27.0	25.1	59.1	115.8	121.3	133.1
X 呼吸器系の疾患	23.5	21.3	26.5	6.5	8.2	18.0	42.5	44.6	46.6
喘息 (再掲)	13.3	11.6	15.4	6.2	7.1	17.5	37.8	42.6	48.1
XI 消化器系の疾患	21.3	20.3	22.8	8.0	11.1	19.5	27.6	29.4	30.6
歯及び歯の支持組織の疾患 (再掲)	9.2	10.1	8.5	22.2	6.9	7.1	12.0	11.8	10.9
食道、胃及び十二指腸の疾患 (再掲)	24.9	20.7	30.5	10.4	7.9	24.7	29.3	30.9	30.4
肝疾患 (再掲)	32.0	29.4	36.5	11.2	16.4	26.9	41.0	45.8	48.6
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	22.0	22.2	21.7	7.6	13.6	22.4	30.8	30.9	31.9
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	41.3	32.5	48.0	16.2	22.5	33.8	52.6	54.7	60.8
XIV 泌尿生殖器系の疾患	23.2	20.9	25.9	11.1	11.4	14.4	34.9	37.7	41.6
XV 妊娠、分娩及び産後	7.8	.	7.8	5.2	7.8	8.2	-	-	-
XVI 周産期に発生した病態	11.7	11.9	11.5	11.7	-	-	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	22.6	24.0	20.8	16.4	39.7	25.4	41.2	51.1	78.7
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	17.7	16.7	18.6	7.2	11.7	12.9	25.1	26.8	29.3
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	34.8	29.0	40.9	8.4	17.5	29.7	51.0	52.1	54.5
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5.6	3.7	6.7	6.0	6.2	3.1	12.0	13.3	14.9
歯の補綴 (再掲)	6.5	8.3	5.3	15.8	4.0	6.0	7.0	9.4	11.6

注:総数には、年齢不詳を含む。

ウ 都道府県別

病院の退院患者平均在院日数を都道府県（施設所在地）別にみると、山口が55.3日と最も長く、山形が29.5日と最も短い。一般病床等についてみると、宮崎が31.8日と最も長く、長野が19.9日と最も短い。（図9）

図9 都道府県別（施設所在地）にみた病院の退院患者平均在院日数



注：「一般病床等」とは、医療法に定める「一般病床」及び「経過的旧その他の病床」（「経過的旧療養型病床群」及び「老人病床」を除いたもの。）をいう。

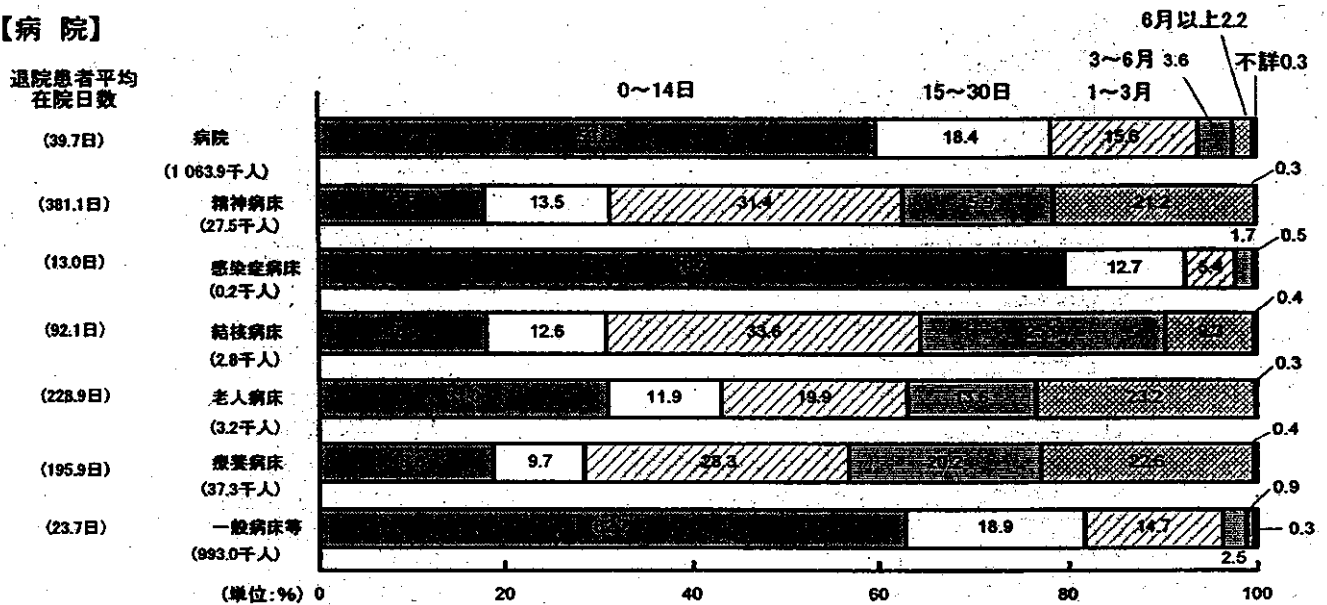
(2) 在院期間

調査期間1か月間に医療施設を退院した患者の在院期間を構成割合を施設の種類別にみると、0～14日の構成割合は、病院は59.8%、一般診療所は76.5%、3か月未満の入院は、病院は93.8%、一般診療所は96.1%となっている。

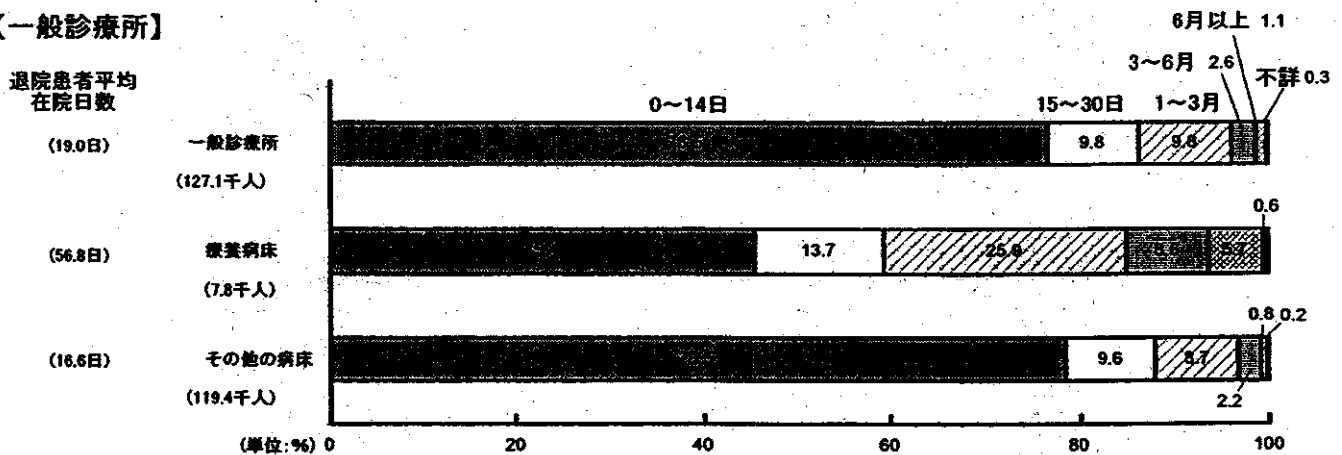
病床の種類別にみると、病院の精神病床、老人病床及び療養病床では、6か月以上が20%を超えている。(図10)

図10 病床の種類別にみた在院期間の構成割合

【病院】



【一般診療所】



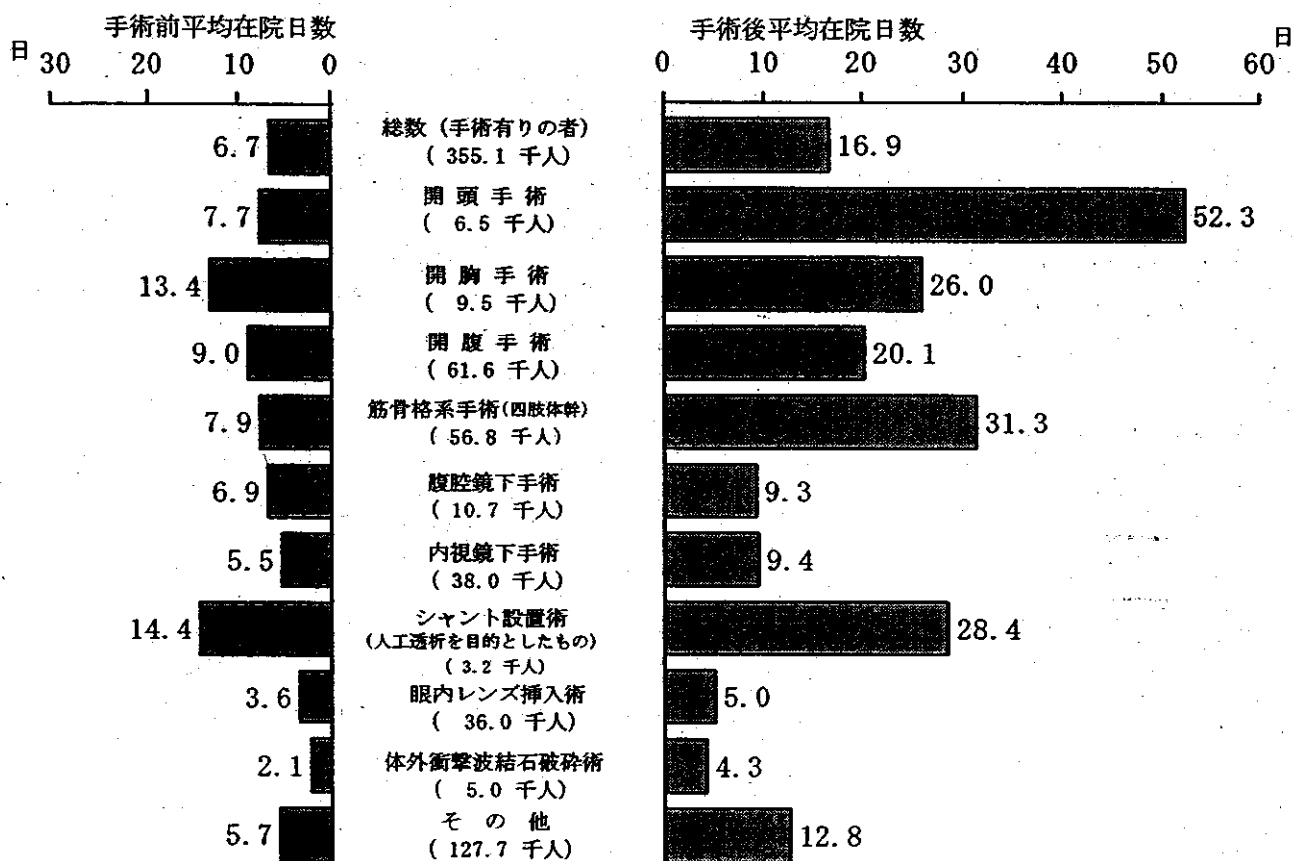
- 注：1 病床の種類は退院時のものである。
2 () 内は、推計退院患者数である。

(3) 手術前在院日数・手術後在院日数

手術前平均在院日数は6.7日であり、「シャント設置術」の14.4日が最も長く、「体外衝撃波結石破碎術」の2.1日及び「眼内レンズ挿入術」の3.6日が短い。

手術後平均在院日数は16.9日であり、「開頭手術」の52.3日が最も長く、「体外衝撃波結石破碎術」の4.3日が最も短い。(図11)

図11 手術名別にみた手術前平均在院日数・手術後平均在院日数

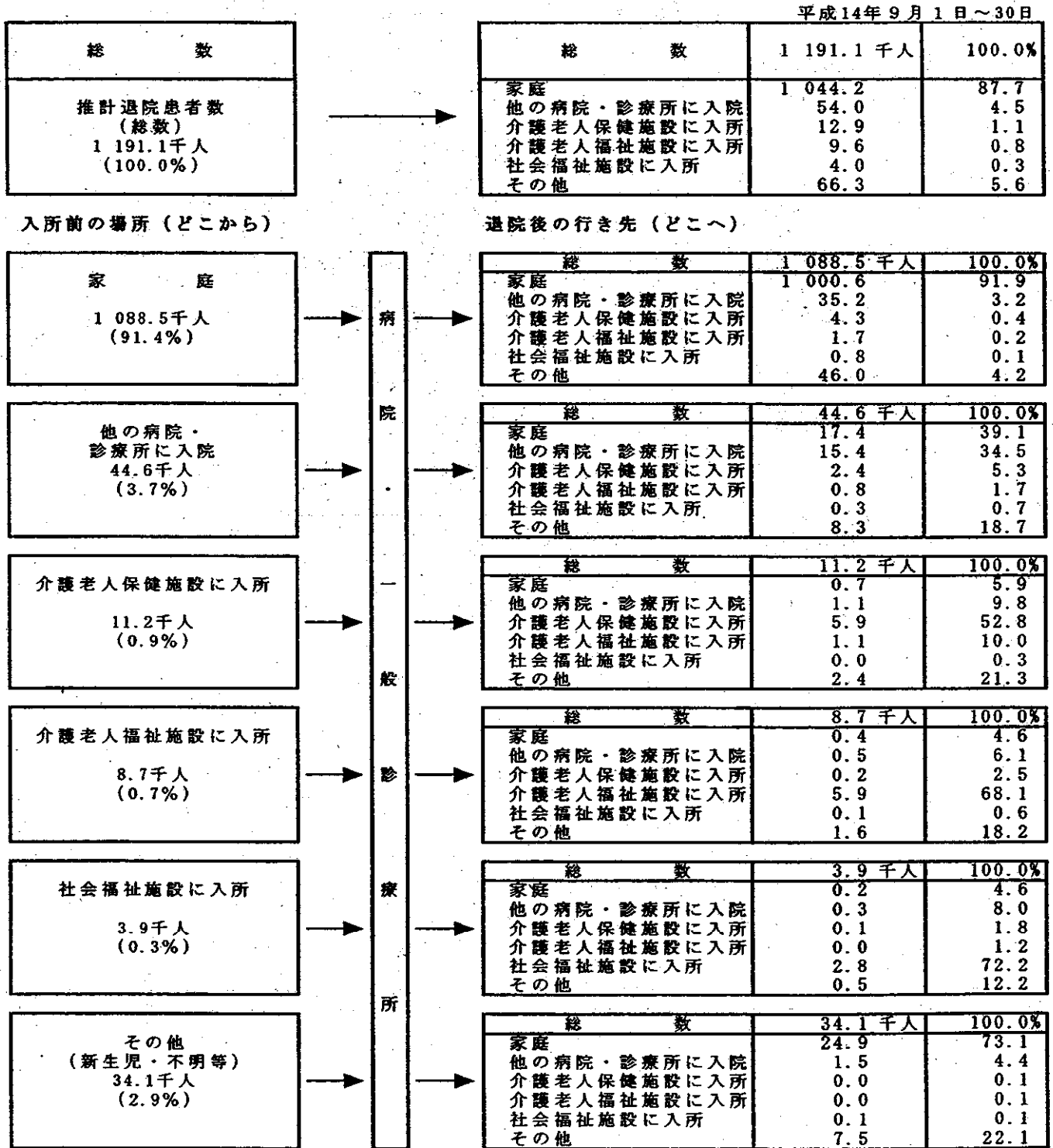


- 注：1 「開頭手術」とは、頭蓋骨を広範囲に開窓する方法により行われる外科手術をいう。
 2 「開胸手術」とは、胸壁を切開し胸腔に達する方法により行われる外科手術をいう。
 3 「開腹手術」とは、腹壁を切開し腹腔に達する方法により行われる外科手術をいう。ただし、開胸開腹手術については、開胸手術としている。
 4 「筋骨格系手術」とは、四肢体幹を切開し、筋、腱、関節、骨、神経に達する方法により行われる外科手術をいう。
 5 「腹腔鏡下手術」とは、腹腔鏡を用いた外科手術をいう(腹腔鏡下胆嚢摘除術、腹腔鏡下婦人科手術等)。
 6 「内視鏡下手術」とは、内視鏡、ファイバースコープを用いた外科手術をいう(内視鏡的ポリープ切除術、食道静脈瘤硬化療法等)。
 7 「シャント設置術」とは、人工透析(導入)を目的として内・外シャントを設置する外科手術をいう。
 8 「眼内レンズ挿入術」とは、眼内レンズを挿入する外科手術をいう。
 9 「体外衝撃波結石破碎術」とは、体外衝撃波結石破碎装置を用いた外科手術をいう(体外衝撃波腎・尿管結石破碎術、体外衝撃波胆石破碎術)。
 10 「その他」とは、上記以外の外科手術をいう。

(4) 入院前の場所・退院後の行き先

入院前の場所別についてみると、「家庭」から入院した者は108万9千人で推計退院患者の91.4%となっている。また、退院後の行き先別についてみると、退院後の行き先の87.7%が「家庭」である。(図12)

図12 入院前の場所・退院後の行き先別推計退院患者数・構成割合



注：1 「家庭」には、病院・一般診療所への通院・在宅医療も含む。

2 退院後の行き先における「その他」とは、退院後の行き先が特定できない者で、死亡・不明等も含む。

(5) 退院の事由 (転帰)

退院の事由の構成割合をみると、「治癒」が6.9% (8万2千人)、「軽快」が70.0% (83万3千人)と治癒・軽快の割合が約8割となっている。また、「不変」が5.8% (7万人)、「悪化」が0.7% (8千人)などとなっている。退院後の行き先別でみると、「家庭」、「介護老人保健施設に入所」、「介護老人福祉施設に入所」及び「社会福祉施設に入所」では、治癒・軽快の割合が多い。

病床の種類別でみると、病院の「感染症病床」、「一般病床等」では、治癒・軽快の割合が多い。(図13・14)

図13 退院後の行き先別にみた退院の事由別推計退院患者数の構成割合

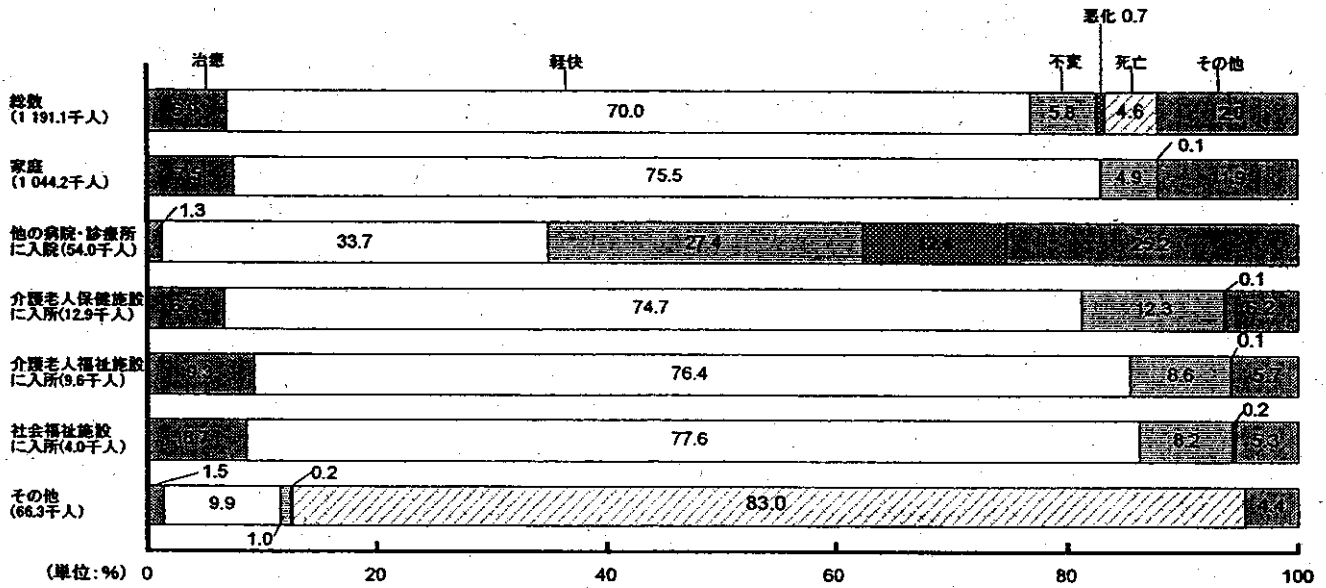
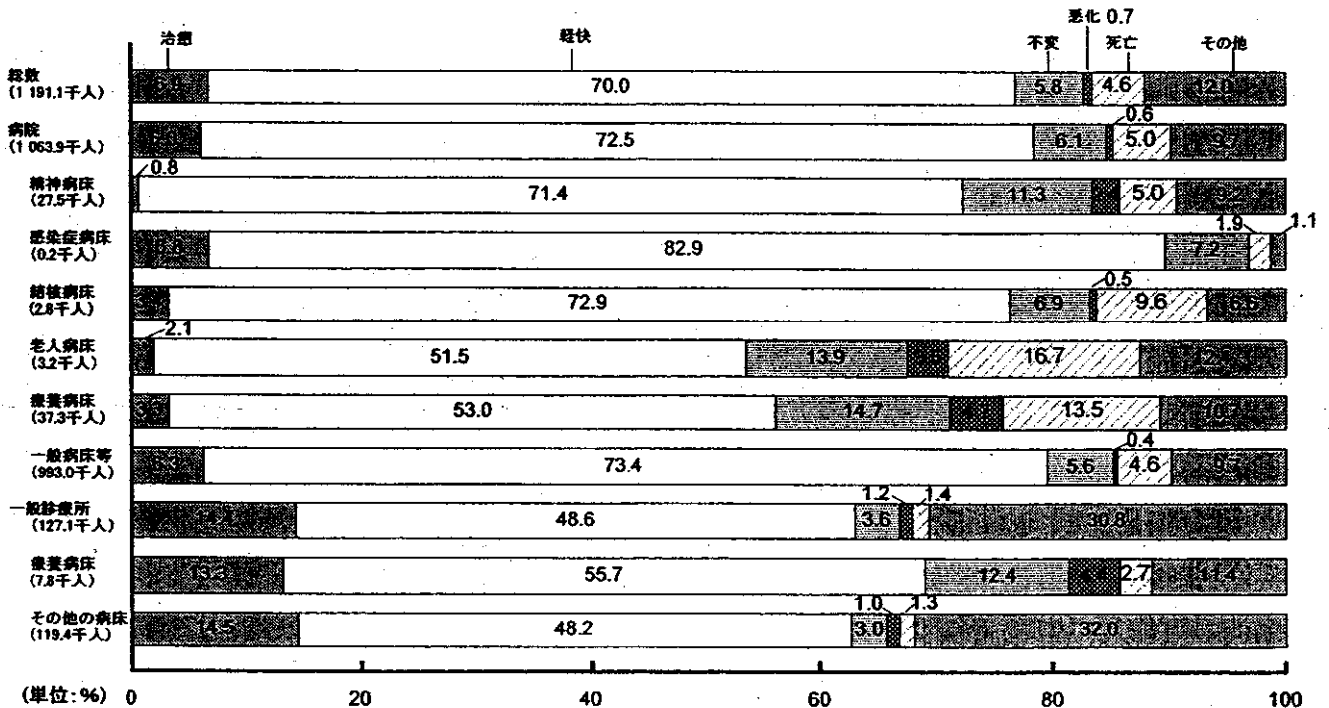


図14 病床の種類別にみた退院の事由別推計退院患者数の構成割合



5 主要な傷病の総患者数

主要な傷病についての総患者数は、高血圧性疾患約 699 万人、歯及び歯の支持組織の疾患約 487 万人、糖尿病約 228 万人、脳血管疾患約 137 万人、白内障約 129 万人、悪性新生物約 128 万人等となっている。(表 1 1)

表 1 1 主要な傷病の総患者数

(単位：千人) 平成14年10月

	総数	男	女
結核	47	27	20
ウイルス肝炎	412	211	201
悪性新生物	1 280	674	605
胃の悪性新生物	222	142	80
大腸の悪性新生物	222	123	98
肝及び肝内胆管の悪性新生物	59	40	19
気管、気管支及び肺の悪性新生物	99	67	32
乳房の悪性新生物	162	4	158
糖尿病	2 284	1 208	1 076
血管性及び詳細不明の痴呆	138	38	100
精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害	734	360	375
パーキンソン病	141	59	81
アルツハイマー病	89	28	61
白内障	1 292	384	908
中耳炎	203	98	106
高血圧性疾患	6 985	2 791	4 202
虚血性心疾患	911	481	433
脳血管疾患	1 374	671	703
喘息	1 069	558	511
歯及び歯の支持組織の疾患	4 870	2 068	2 803
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	782	452	330
肝疾患	350	200	150
アトピー性皮膚炎	279	153	126
慢性関節リウマチ	321	63	258
前立腺肥大(症)	398	398	.

注： 総患者数は表章単位ごとの平均診療間隔を用いて算出するため、男と女の合計が総数に合わない場合がある。

※総患者数(傷病別推計)とは

総患者数とは、調査日現在において、継続的に医療を受けている者(調査日には医療施設で受療していない者も含む。)の数を次の算式により推計したものである。

$$\text{総患者数} = \text{入院患者数} + \text{初診外来患者数} + \text{再来外来患者数} \times \text{平均診療間隔} \times \text{調整係数 (6/7)}$$

